

令和2年度 第2回学校運営協議会 記録

◇開催日時 令和2年12月11日(金) 10:35～

◇開催場所 御船町立高木小学校 図書室

◇出席者

(委員) 北本修吾 芥川公明 田尻孝子 藤本悟  
中城重徳 福田健治 高田一道 楢田和子

(教育委員会) 山内主事

(PTA役員) 富永会長 中田母親部長

(学校) 福田校長 佐藤教頭 岩崎(記録)

1 開会

2 校長あいさつ

3 授業参観【3校時】 10:40～11:05

4 学校説明(佐藤教頭) 11:10～

(1) 今年度の取組から

○学校の努力点・具体的実践事項

徳：人権教育の推進、「4つのあ」

知：授業改善、家庭学習の充実、読書活動推進

体：生活リズム、運動量の確保

○新型コロナウイルス感染防止対策

(2) 地域・学校協働活動

○年間活動計画(12月現在)

(3) 今後の取組

- ・「4つのあ」→できるまで声をかけ見届ける
- ・いじめ不登校の未然防止
- ・地域の人材・教材の発掘と活用
- ・授業改善、校内研修の充実、家庭学習の習慣化・質的向上
- ・体力づくり、生活習慣改善への意識向上
- ・メディア機器の適切な利用についての啓発、PTA母親部会との連携

5 意見交換・協議 11:30～

(1) 質疑

- ・水曜日など下校時間が早い日に、コンビニなどに子供たちが集まっている様子を見か

けた。新型コロナウイルスの心配もあるため、学校でも声掛けをお願いしたい。  
→下校後の過ごし方と合わせて指導していく。

## (2) 校長より

### ○前回（第1回）の運営協議会を受けて

- ・学校便りで今年度の学校経営方針について承認いただいたことをお知らせした。学校・職員全体で子供を育てる、自分の学級はもちろん、学校全体で子供を見守ること。そして、職員に対しては、自分が挑戦したい学力向上の取組を実践してもらいたいと伝えている。

### ○取組の進捗状況について

- ・今年度のブロック制については職員にも説明しながら進めてきたところではあるが、これまでの学級担任制との兼ね合いもあり、なかなか難しい部分もあると感じている。ただし、高学年については、5・6年生の体育を6年担任が、英語を5年担任が担い、「2人で見ていく」という体制ができてきている。
- ・今年は新型コロナウイルス感染防止対策もあり、本来ならば学校運営協議会の回数を増やしたかった。委員の方々から「こんな子供たちを育てていきたい」という姿について熟議していただき、そのために「このような力を持った先生に来てもらいたい」というような職員の配置についても意見をいただくところまでいきたかった。来年度もこのように進めていきたいと考えている。

## (3) 意見交換、気付き等の共有

### ○気付きとして

- ・学校HPのアクセス数が前回（第1回目）の頃と比べ2万件近く伸びている。内容も学校の活動の様子がとてもよく分かるものになっている。保護者も関心を持っているのだと思う。近隣校でもHPの活用が進んできており、福田校長をはじめとする高木小の発信が町内へと広がってきている。

### ○意見交換（学校の様子、新型コロナウイルス関連も含めて）

- ・「どんな学校か」を見るときにスリッパの並んでいる様子を見るようにしている。高木小はほぼ並んでいることもあり、子供たちの様子も落ち着いていると思う。そのような観点で学校を見ていると、高木小の子供たちはとても真っ直ぐによく育っていると感じられる。
- ・子供たちはコロナ禍にあっても元気よく過ごしているように感じる。今日の授業参観で「難しい」と感じた点として、様々な学級の特色がある中で、どうやって一つ一つの出来事を子供たちに伝えていくのか。どうすれば子供の心に響くような導き方をしてあげられるのか難しいと思った。

### →福田校長より

今日の授業参観を職員には伝えておらず、「ありのまま」の様子を知っていただいたので、よかったと思っている。6年生は「積極性を育てたい」と学級担任とも話し、しっかりとほめながら卒業に向けてやる気を高めているところ。5年生は日頃からきちんと一つ一つの活動に取り組んでいる。今日は、担任から感想発表の様子も含

め、今後リーダーになっていく子供たちに向けての指導だったと感じている。日頃の人間関係がしっかり築けているため、あの指導をきちんと受け止め考えることのできる子供たちであるとも思っている。そのような指導が繰り返し学校の中では行われているので、今日はその様子を見ていただけて良かった。

- ・福田校長が言った「つながり・絆」というものが、子供たちの間に少しずつ見えてきている。学校で子供をよく見てもらっていると感じる。

#### ○PTA活動について

- ・今年はPTAとしての活動にも制限があり、やっと開催できた運動会でも来賓を招待することができないような状況だったが、事前の美化作業などご協力いただいたことがとても有り難かった。地域の中で子供たちを育ててもらっていると感じている。
- ・保護者の協力も非常に得られている。「学校が楽しい」「高木小学校でよかった」というアンケート結果につながっていると思う。
- ・自尊感情と他者意識の点で、子供のアンケート結果と保護者・職員の結果が乖離している。PTAと職員とで連携しながら子供たちの生活の様子をしっかりと見ていかななくてはならないと感じる。
- ・一番気になっているのは、SNSや、友達とゲームでつながる様子、メディアの時間を決めていても守れないことなど。家に居ながら友達とゲームでつながれる時代となり、保護者としても世の中に対応しながらどうにか学校・地域と共に対策を考えていかななくてはならないと思っている。
- ・読み聞かせなどPTA活動の参加者が限られている。実際にやってみると子供たちの嬉しい反応があり、とても楽しいものだと感じるから、それをもっと保護者全体に発信していきたい。

#### ○子供の様子について

- ・挨拶が少ない、元気がないという印象がある。しっかり自覚させ、他者意識を持たせたいという先生方の意図もよく分かる。ゲームについては、高学年になると親の知らないところでやっていたり、保護者の中でも危機感に温度差があったりと、今後の課題だと感じている。
- ・町の体育関係の行事が中止となり、今年は他の地区との交流ができなかったことが残念であり、子供たちにも機会を与えられず申し訳なかった。
- ・グランドゴルフの後、老人会ではトイレの清掃をして帰ろうと話合った。  
子供たちは、以前は友達同士で家に来てこっそりゲームをしていた。今はそれぞれ家に居ながらゲームで話ができしてしまう。各家庭でしっかり話していかなければと今後の不安を感じている。
- ・朝の交通指導の時間が子供たちの顔を見る機会になっていた。最近は学童に行っている子供も多く、顔を見る機会が減ったように感じる。低学年の子供たちはよく挨拶ができている印象。挨拶は一生続けていくもの。学校ではできていても、地域では差がある。子供の将来のためにも家庭でもっと話をしてほしい。

- ・公民館に集まったの地域の活動なども減っている。以前はもぐらうちなどの行事持った。「子供たちを招きたい」という声はあるが、時代が変わったという印象。地域との触れ合いが減り残念に思う。
- ・学校教育がどのように行われ、充実しているかどうかは、子供の姿が一番の指標となる。不登校・いじめなどがなく、高木小はうまくいっているのだと思う。教育環境は大きく変わり、今では幼児化した大人が大人化した子供を育てている。これらの課題解決のためには、PTAと学校が協働で取り組んでいくことが必要。

(4) 「子ども110番の家」の活動報告から

- ・事件の一步手前というような報告もある。地域で見守っていかなければならない。

6 給食試食会

7 閉会